

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200074		
法人名	社会福祉法人 真寿会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム 鮎川いばの里 ユニット みかん		
所在地	和歌山県田辺市鮎川3003		
自己評価作成日	平成24年3月	評価結果市町村受理日	平成24年5月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3092200074&SCD=320&PCD=30
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成24年4月		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれた施設で、眼下には富田川と家並みが一望できる高台にあり、四季を満喫できる自然環境に恵まれている。隣地の畑ではボランティアの協力により、四季折々の野菜が収穫され食卓に上ります。職員は笑顔での対応に心掛け、利用者様の要望には迅速な対応に努めています。又、同一法人の医療機関や特養との連携が充実されており、日々安心して過ごして頂けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人権を尊重し、やさしく思いやりのある介護」に向けて、人権を尊重する具体化して、 ①呼名に注意②プライバシーへの配慮③言葉は「です。」「ます。」を基本にして言葉掛けをする事でお互いの立場を確認する。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育所の運動会を見学。玉入れなど参加させて頂く、又、地区の秋祭りには子供みこしの来訪があり、笛や太鼓の演奏に大変喜んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の清掃や草刈りなどに参加。その折に交流をもち、会話を持つ様になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月毎に会議をもち、地区の情報を頂き、サービスに活かす様にしている(秋祭りや、台風の影響などの情報など)		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大塔行政局より、運営推進会議へ参加頂き「いばの里」利用者状況や取り組みなどの報告、アドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の身体拘束に関する研修を受け、拘束のないケアをしているが、人数的に見守り出来ない時に限り、玄関を施錠する事がある。基本的に玄関は開放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修に参加。学ぶ機会を持ち、見逃す事なく、注意し合える関係作りに取り組む、慣れ合いにならない様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の研修に参加し、学ぶ機会をもっている。現在1名の方が利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明をした上で、契約を頂く事とし、料金に関しても説明の上、納得頂き同意書を頂く様にした。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時には家族様に日常の報告をしたり、年4回の機関誌「真寿」発行に合わせ手紙や写真を添え郵送し、大塔の花火大会へのお誘い等もさせて頂く。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月初めに職員全員参加の会議をもち、自由な意見交換をし、又、雑誌の中からもケアの改善を行っている。随時に決まったことは、申し送りノートにて全員に知らせる事としている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務表作成前には休みの希望日を提出してもらい、添って作成している。給与等に関して法人に従っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1度の法人内研修に2名参加。(1年間同じ職員)「いばの里」に戻り、他の職員に同じ事を伝達し印鑑を押す事としている。日常の疑問にはその都度答える事としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での他グループホームでは、相談事など連絡をもっているが、他の事業所とは研修参加時に情報交換する程度である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	帰宅願望のある利用者様には、話し相手となりよく聞くことから始まり、散歩や外出など気分転換を図りながら慣れて(環境に)頂く。又、家族の声を聞くことで安心される方には、時には電話させて頂くなど、家族の了解の上、電話させて頂くことがある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回のカンファレンスに於いて、細かく聞き、まず環境に慣れて頂く事に重きを置き、入所後は細かく電話にて報告する事に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時段階での身体、精神状況に応じての対応である事の説明。又、今後変化していくであろうサービスについての説明も行い、安心を得るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の作業やレクリエーション等について、以前に関わっていたと思われる事や得意部分について指導をお願いし皆で行う事もある。(裁縫など)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に電話して欲しい希望がある場合など即対応。(事前に家族に了解を得ている)又、手紙などの投函する事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通っていた美容院への希望があり、付き添いをする。又、以前の職場の方はご近所の方の来所も時々あり、本人に代わり日常生活や遠くの家人様にも報告する様にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時やレクリエーションの座る場所にも配慮し、トラブルが起こりそうな気配を早く察知して、間に入る様にし、トラブル発生を事前に治める様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ移られた方を訪問する事もある。医療が必要となり入院された家族様より相談の電話等受ける事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	楽しみながら関わられる範囲での手伝いを無理しない程度にお願いして職員と一緒に行う事とし、それが習慣化しつつある。(おしぼりたたみ、ゴミ箱作り)		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の家族様を交えてのカンファレンスの中で生活歴や暮らしを知るが、入所後の雑談などから、より深く暮らしや家族への思いを知る事が多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	以前の暮らしの中から意外な能力を知る事がある。(計算が早かったり、難しい漢字が読めたり、歌詞を何番も覚えていたりする)その得意な部分をレクリエーションで活用できる場を提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成には、実践できる範囲での計画とし、月1度のケア会議では問題点を出し計画の変更も柔軟にする様にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの中での成功や失敗点など月1度のケア会議の中より情報を得ながら職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに役立てるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の都合で専門医療機関への付き添いなど行っている。その他美容院への付き添いや化粧品の購入などにも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容師の訪問では実施されていない毛染めの希望には家族了解の上で、付き添いをしている。田辺市のふれあい文化祭への出品や展示品の見学などにも外出支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人併設のクリニックを殆どの方がかかりつけ医として、二週間毎の往診を受け、必要時は他医療機関への紹介状を頂き受診支援。又、訪問歯科も利用している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、AM、PMの来所がある。その中で報告、相談、主治医との連携を行い職員に伝達。又、意思の支持にて「いばの里」に於いて、点滴の実施などもする。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、様子伺いの訪問に努め、退院前には、病院側とカンファレンスをして頂き、注意や退院後の指導など頂き、スムーズな受け入れが出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療が必要となった場合や重度化の場合は家族様の意向を十分に伺った上、法人内他機関への移行等、行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勤務体制では、経験のある職員1名を配置して指示できる体制を組んでいる。又、法人内での研修で(緊急時の対応)に参加し勉強の機会を持っている。(AEDの訓練も予定)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施(1回は消防署立会い)運営推進会議においても地域への協力をお願いすると共に食料の備蓄に努めている。(粥、水、肉じゃが、金時豆、酢豚、ハンバーグ煮込み)用意あり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いと笑顔での対応に心掛けると共に「です」「ます」を基本とした言葉遣いにより、馴れ馴れしくなっていくがちな「利用者」と「職員」と立場を振り返る。又、排泄、入浴のプライバシー保持には特に注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の用意など、一緒に選んで頂ける人には一緒に用意している。帰宅願望の強いとき等は、しばらくの間外で過ごすなど本人の気持ちを優先する様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調などもあり、他者と過ごすことを拒否される方もいるが、天気の日には外の空気が吸える様な援助を多く取り入れデッキの活用をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師による毛染めは出来ない為行きつけの美容院での毛染めに付き添ったり、化粧品の購入などの希望に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	隣地の畑での収穫物が食卓に出る事もありその下ごしらえ(豆むき、筋取り)などして頂き、誕生日会では、クレープ、お好み焼きなど楽しみ、天気の日にはデッキでのコーヒーや簡単なメニューの時などランチも頂きピクニック気分を味わっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士の献立に基づいた調理。特に、冬場の水分摂取には注意し2回のコーヒータイム、牛乳の飲用。夜間眠れない時や早朝起床される方に温かいお茶など勧める様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は洗面所に誘導し口腔清掃に努め、3/7歯科衛生士の来所にて、個人の口腔チェックと清掃誘導をして頂いた。往診歯科もお願いした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をとり、日中は全員の方がトイレでの排泄(時間的に声掛けし誘導)夜間のオムツ着用者2名。Pトイレ設置6名。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を多くするように支援しつつ、朝食時にはバナナを摂っているが便秘がちな利用者も多く、便通薬の服用者も多い。レクレーションでの体操も取り組む様になっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月～土に入浴を実施、週2回は入浴出来ており、希望者は重ねての入浴も可能。排泄の失敗など必要時随時の入浴やシャワー浴で対応。個人に合わせ一人ずつ入浴介助している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	パジャマに更衣後は個人の希望により、それぞれの自由時間を過ごしたのちベッドに介助。眠れない時などホールで温かいお茶など飲用して頂く事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐために2重のチェック体制をとり、変薬時は医療申し送りノートで全員に伝達。申し送り時にはくり返し伝達する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物や新聞紙を使ったゴミ箱作りおしぼりたたみ、食前のテーブル消毒や手指消毒など個人にあった仕事をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年の様に「水辺の楽校」使用出来なくなったが、近くの梅畑への観梅や、デッキでのゲーム、体操など徒歩の近くへの散歩は日常的にマンツーマンで行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いとして預かっている方もいるが、個人的にお金を持っている人はいない。必要時には家族様に連絡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をして自由に話してもらえる様に取り継いでいる。手紙の投函もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外から直接見えない様、目線の位置にフィルムを貼って食事時のみ衝立を置くようにしている。ひな飾り、五月人形など季節を感じられる置物や生花を置くようにしている。テレビの音量やエアコン調整はこまめにする様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中央ホール、西ホールがありそれぞれにソファを置き気の合った者で過ごしたりしているが場所を移動する事や居室に入る事で独りで過ごせる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳部屋を希望すれば出来る様に入所時に本人や家族と話し合いを持っている。クローゼットが大きく、備え付けなので好みの物を持参されても、その中に入れてしまわれる方が殆どである。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室を間違える方は、本人、家族に了解を頂いた上、居室入り口に大きく名前を貼ったり、共同トイレにも分かりやすく表示している。		